

兵庫県医師会医療支援チーム（第16陣）「宮城県災害支援現地報告」

常任理事 鈴木 克司

一連の派遣医師で初の耳鼻咽喉科医としての参加です。兵庫県眼科医会は組織的に協力されていますが当科需要は未知です。医療支援チームはインフルエンザなどの感染症が拡がることを絶えず警戒し各避難所の感染症発生動向調査に協力、データは石巻赤十字病院で集計され毎日のミーティングで公表されます。全般的に発熱は少なく咳が目立ち呼吸器感染症流行の監視は必須です。

この時期になると避難住民は全半壊した自宅の片付け等のため日中は避難所を留守にすることが多く救護所利用者は高齢者が目立ちます。石巻中学校救護所では高血圧症の方で派遣医師の努力にもかかわらずなかなか血圧コントロールがうまくいっていないと思われる方もおられました。救護所の医療の限界は必ずあります。やはり身近な医療機関で必要時に精密検査を受けながら厳密な治療が可能な状況を1日も早く回復すべきであると思いました。

耳鼻咽喉科専門医の診察が必要な方はチームで注意深く掘り起こせばありそうですが、私が来るとの予告を待ってくださっていた方を診察するだけでなく、内科診療の代行をしている際に当科領域の訴えを聞き出して掘り起こしたりもしました。特筆すべきは、慢性中耳炎ながら膿が出たりはせず安定しているはずなのに耳鳴りが自覚されるようになったと訴える高齢者、対話すれば普通に聞こえているようなのに「聞こえが悪い」と訴える小学生などがいたことで、被災後のストレス軽減が今後ますます重要課題になることとされます。



地元医療機関が1日も早く平常どおりの診療体制に戻れますように！